

息の長い活動必要

AMDA派遣医師ら 四川、ミャンマーの支援報告

ミャンマーのサイクロン被災地や中国四川省の震災に派遣された国際医療援助団体AMDA（本部・岡山市）の医師や協力団体関係者が31日、岡山国際交流センターで支援活動を報告した。

ミャンマーの報告では、岡山大医療教育統合開発センターの寺戸通久医師が「村は跡形もなく流されていた。子供や老人が流され、それなりの体力がある人しか助からなかった。ライフラインも閉ざされ、電子機器が使えず、自分の目とペン

ライトだけで診療し、5日間に5人のスタッフで約1000人を診た」と写真を交えて紹介。

また、NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会の理事長、岡田茂岡山大名誉

教授は「子供が助かったところが本当に少ない。家族を亡くした精神的苦痛で、夜も眠れない子供がたくさんいた。心のケアが大きな仕事になる」と話し、「何か災害があったから支援をするのではな

8月30日に発生した中国四川省南部の地震（マグニチュード6.1）で、AMDAは現地の情報収集と病院に医療機器を提供するた



ミャンマーでの医療支援を報告する寺戸通久医師
岡山国際交流センターで